



湖南省が掲げるまちの将来像「ずっとここに暮らしたい！ みんなで創ろう 笑顔つなぐ・つながる湖南」の実現に向けて、本計画に定める政策を実施することによって、10年後に到達しているまちの姿をここに描きます。

多様な背景を持っている市民みんながそれぞれの立場で社会に参加でき、だれもが気軽に相談できる窓口がある



3駅を中心としたコンパクトな市街地が形成され、鉄道、バス、自家用車の連携による交通ネットワークが確立している



学生もシニアもそれぞれの得意な分野を生かして協力しながら、学生が地域を笑顔にするまちづくり活動にチャレンジできる仕組みがある

湖南省市民憲章 まちづくりの5つの理念

- ◆ 美しい水と緑を大切にし、自然と調和したまちをつくります。
- ◆ たがいの人権を認めあい、思いやりのあるまちをつくります。
- ◆ 子どもが健やかに育ち、障がい者や老人をはじめ、だれもが安心して暮らせるまちをつくります。
- ◆ ゆたかな歴史を重んじ、香り高い文化のまちをつくります。
- ◆ 社会の規律を守り、安全で住みよいまちをつくります。



1. まちづくりの理念と将来像

湖南市って、こんなまち—湖南市の特徴

湖南市は自然環境（野洲川、国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」など）、歴史文化遺産（湖南三山など）が豊富なまちで、交通ネットワーク、工業団地の整備により発展してきました。外国人の居住割合は県内で最も高く、多様な文化が育まれています。また、湖南市は災害が比較的少ないため、安心して暮らすことができます。

【自然豊かな広域交流のまち】

- ・南北に阿星山系と岩根山系、中央には琵琶湖に注ぐ県内最長河川の野洲川、美しい田園風景が広がる自然豊かなまち。大阪、名古屋から100km圏内にあり、国道1号沿いで、栗東・栗東湖南・竜王IC、国道8号にもアクセスが良い広域交流拠点のまち



【歴史・伝統文化が豊かなまち】

- ・東海道石部宿、湖南三山など有形の歴史文化遺産、滋賀の伝統工芸品にもなっている近江下田焼、酒蔵などがある伝統文化のまち



【ものづくり（工業）のまち】

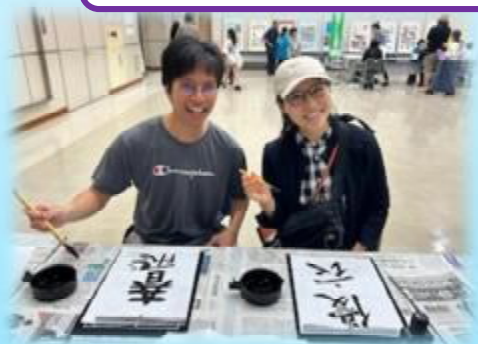
- ・県内最大級の湖南工業団地をはじめ、5箇所の工業団地があるものづくりのまち





【多文化共生のまち】

- ・外国人の居住割合が県内1位の多文化共生のまち



【障がいのある人と共に歩む福祉のまち】

- ・「社会福祉の父」糸賀一雄らが創設した近江学園があり、全国に先駆けて構築した発達支援システムを持つ福祉のまち



【脱炭素に取り組むまち】

- ・「SDGs 未来都市」「脱炭素先行地域」に選定され、自治体地域新電力会社「こなんウルトラパワー株式会社」を中心に先行的な脱炭素政策に取り組むまち



【市民が自分たちでつくるまち】

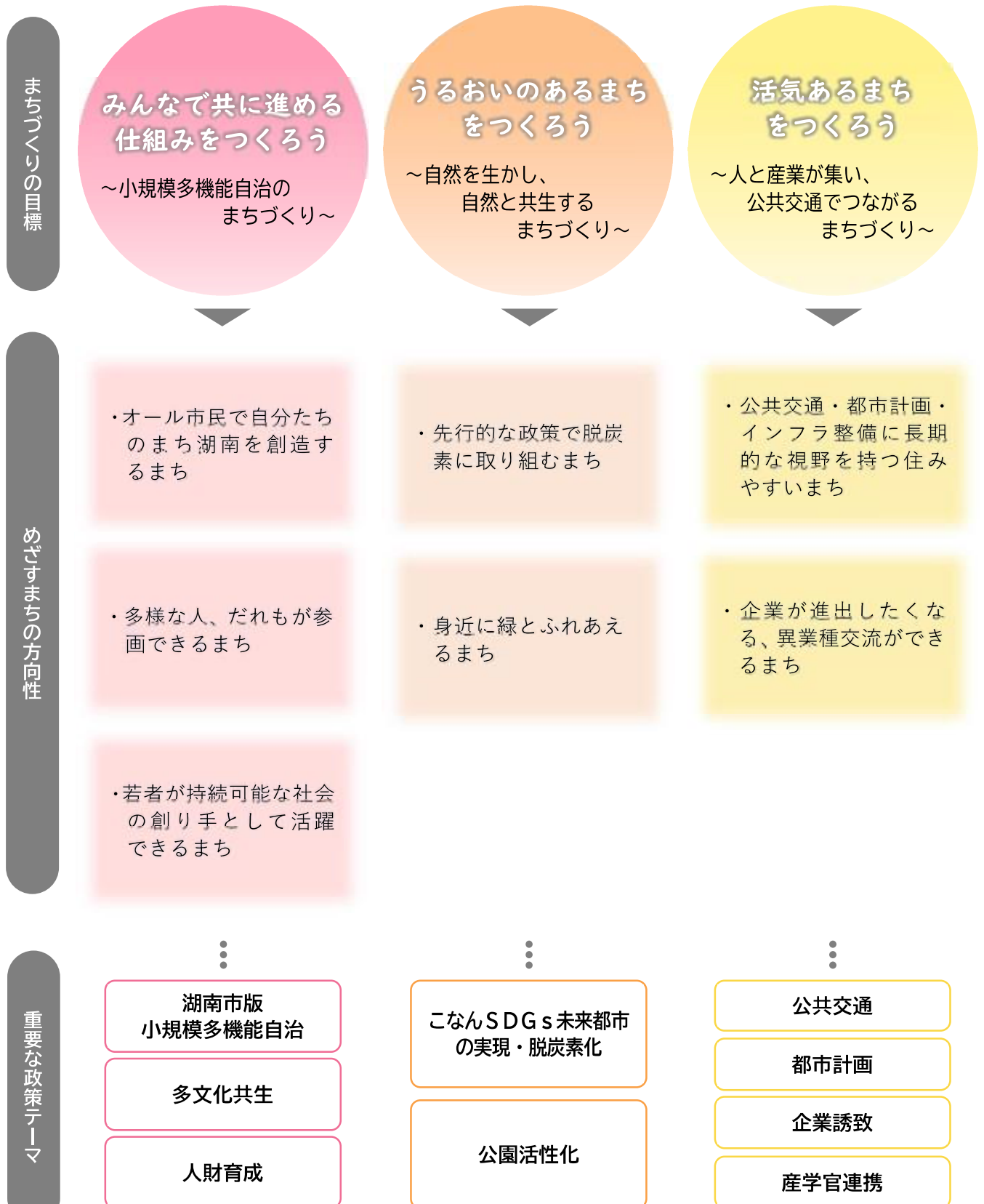
- ・市内に7箇所の地域まちづくり協議会があり、自分たちのまちは自分たちでつくる基本理念に基づく活動を行うまち

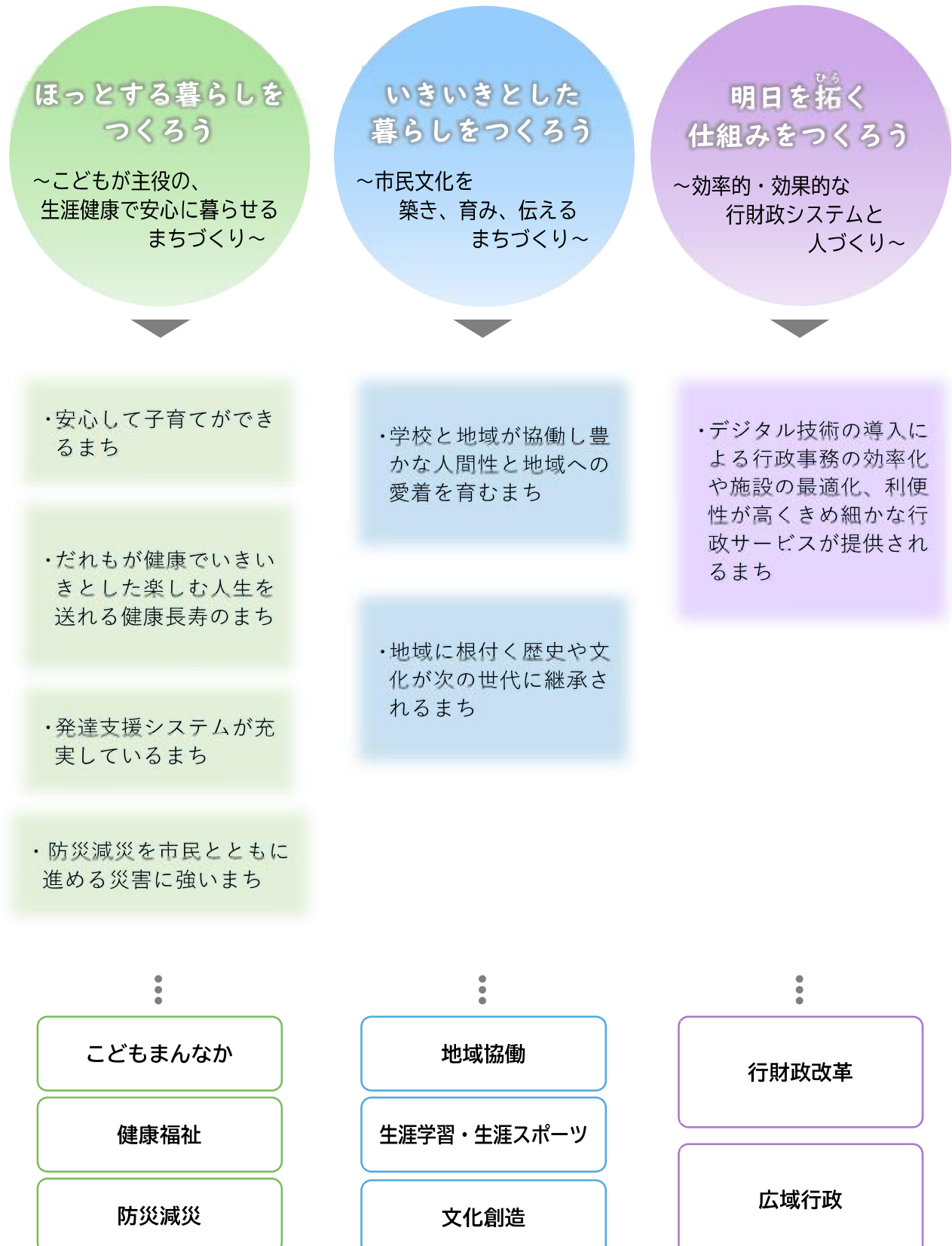


1. まちづくりの理念と将来像

まちづくりの目標・めざすまちの方向性

・重要な政策テーマ







2. まちづくりの目標

2. まちづくりの目標

●まちづくりの目標1

みんなで共に進める仕組みをつくろう

～小規模多機能自治のまちづくり～

少子高齢化と人口減少が加速する中で、ライフスタイルや働き方を含めた価値観が多様化しています。こうした時代背景を踏まえ、地域特性と国際的な視座を融合させた地域づくりが、今まさに求められています。また、人権の尊重を礎とし、互いの存在を認め合いながら共に生きるという理念は、まちづくりの根幹を成すものです。

湖南省は、20～30 歳代の若年層が多く、加えて 4,000 人を超える外国人市民が居住しています。これまで、地域まちづくり協議会の地域住民によるまちづくり活動や「湖南省版小規模多機能自治」の展開、外国人生徒を受け入れる夜間学級の開設などの取組を重ねてきました。

社会環境や人々の暮らし方が大きく変化する中で、人が集う「場」の減少やコミュニティの希薄化が取りざたされています。そうした中でも、湖南省では若者がまちづくり活動に参加し、将来のまちの姿について意見を交わしてきました。「人と人とのつながり」を大切にするその姿は、湖南省のかけがえのない希望と言えるでしょう。

市民の多くもまた、互いに協力し地域の美化や困っている人を地域で支えあう思いを持っています。地縁的なつながりが弱まると、地域によっては担い手不足などによってこれまで通りにできないことも出てきます。それでもなお、一人一人が支えあいの心を持ち、支えあおうとする市民の存在は、湖南省の特徴を生かしたまちづくりに欠かせない大きな強みです。

市民と行政の協働においては、単なる役割分担などの仕組みづくりに加え、「人と人とのつながり」や「話し合う」ことを根幹とすることが重要です。

湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10 年後の未来に向け、小規模多機能自治を進め、地域防災・地域福祉の構築、多文化共生の推進、人財育成など、重要度と市民ニーズの高い施策に取り組んでいきます。

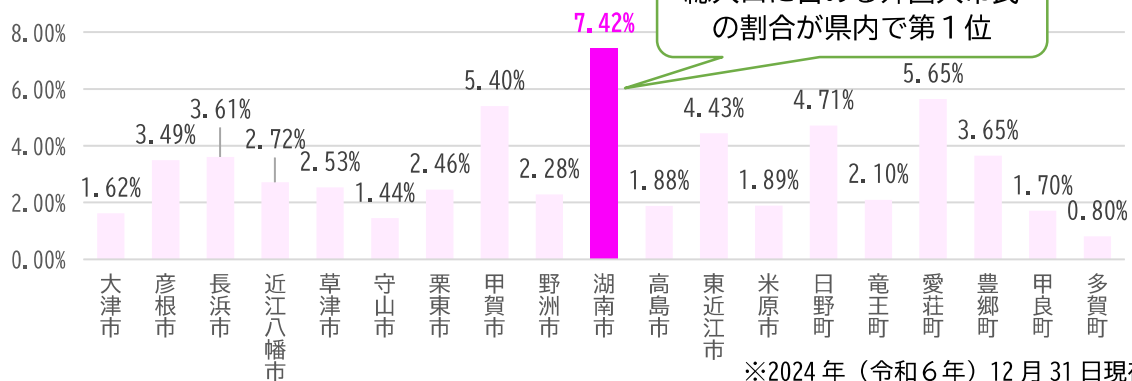
とりわけ、①湖南省版小規模多機能自治、②多文化共生、③人財育成、の3つを重要な政策テーマに据え、「オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち」、「多様な人、だれもが参画できるまち」、「若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。



●めざすまちの方向性

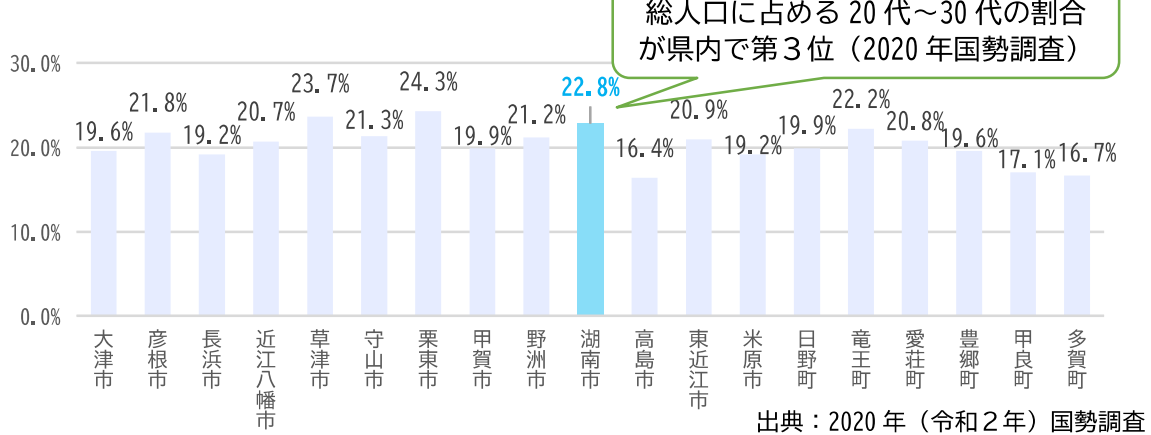
- ・オール市民で自分たちのまち湖南を創造するまち
- ・多様な人、だれもが参画できるまち
- ・若者が持続可能な社会の創り手として活躍できるまち

■市町別外国人人口の割合



総人口に占める外国人市民の割合が県内で第1位

■市町別若者（20～30代）人口の割合



総人口に占める20代～30代の割合が県内で第3位（2020年国勢調査）



市民ワークショップで
企画を話し合う中学生



外国人市民も学ぶ
夜間学級の授業風景



「ウツクシマツ絵本」を制作した
こなんSDGsカレッジグローバル
リストの岡さくらさん（右）



2. まちづくりの目標

●重要な政策テーマ

政策テーマ1-1：湖南省版小規模多機能自治

◆湖南省版小規模多機能自治の推進

湖南省では、「自分たちのまちは自分たちでつくる」ことを基本理念とした地域まちづくり協議会が主体となり、地域課題を自ら解決し、地域で支えあう仕組みを構築しています。行政は、市内4箇所の中学校区を生活圏域としてその取組をサポートする体制や連携の形を確立するため湖南省版小規模多機能自治を推進します。

◆地域防災の推進

社会資本（上下水道、橋、庁舎をはじめとする公共施設など）の耐震化による防災力向上に加え、地域住民のコミュニティ力（自助、共助）の強化による地域防災力の向上をめざします。

「向こう三軒両隣」のコミュニケーション力の強化をはじめ、区・自治会で構成する「ふるさと防災チーム」の充実、4箇所の中学校区単位での広域防災手法の創出、「消防団」や「防災士連絡協議会」による専門部隊の体系化、「消防署」や「災害対策本部」、「地区連絡所」といった行政機能との連携強化に努め市民全体で防災減災を実現できるよう推進します。



石部南まちづくり協議会の防災避難訓練



◆地域福祉の推進

地域には、さまざまな困難を抱えた人が暮らしており、だれもがいつ困り事に直面してもおかしくありません。湖南省では4箇所の中学校区ごとに高齢者の総合相談窓口である地域包括支援センターおよび出産・子育てに関する総合相談窓口である子ども家庭総合センターを設置しており、民生委員・児童委員、地域支援あい推進員と連携し、住民に寄り添い身近な相談ができる体制づくりを進めています。

地域支援あい推進員、民生委員・児童委員や事業者が連携し、相談・サポート体制を構築するなど、困り事や悩み事を抱え込み、問題が深刻化する前に、身近に気軽に相談することができる安心な地域社会を形成します。

政策テーマ1-2：多文化共生

◆外国人市民の地域定着

湖南省の特徴の一つとして、多くの外国人市民が暮らしていることが挙げられます。さまざまなルーツがある外国人市民は、湖南省の経済・社会活動を担う地域社会の一員です。2027年（令和9年）6月までに施行される育成就労制度は、外国人市民が将来にわたって我が国に定住することが見込まれる制度です。受入れを行う事業者による新たな制度への適応が円滑になされ、人手不足の解消につながることを期待されます。

外国人市民にとっても暮らしやすく、活躍しやすい地域社会を形成するため、相互理解を深める異文化コミュニケーションなど湖南省がこれまで培ってきた多文化共生の取組を継続し、関係団体と連携しながら事業者や地域団体による外国人市民が地域社会に馴染みやすいよう支援する積極的な取組を促進し、行政サービスなど有益な情報が円滑に届くようにします。



湖南省立水戸小学校の日本語初期指導教室「さくら教室」



2. まちづくりの目標

◆生活支援の充実

日本人にとってはありふれた日常のサービスや情報であっても、外国人市民にとっては、言葉の壁などによって不便を強いられる場合があります。

湖南省からの行政情報の提供や窓口サービスなどにおいて外国語対応を充実させ、特に防災に関する情報は外国人市民にも正確、迅速に伝わるよう対応するなど、外国人市民が安心、快適に暮らせる地域社会を形成します。

また、日本語初期指導が必要な児童生徒およびその保護者に対し、やさしい日本語からの学びの環境を整え、生活支援の充実に取り組みます。



多言語での窓口対応

政策テーマ1-3：人財育成

◆地域まちづくりの担い手の確保

地域住民の高齢化が進み、地域づくり活動の担い手が不足しています。また、コロナ禍の影響で地域の交流の機会が失われ、それらの活動の企画力や運営ノウハウも徐々に失われていくことが懸念されます。

NPOなどの中間支援組織と連携し、運営ノウハウに関する情報提供など人財育成に取り組みます。

また、学生など若者が地域づくりの活動に参画し、活躍できる機会が生まれるよう地域と若者がつながる場を設けるよう取り組みます。

◆多様な市民が参画する仕組みづくり

湖南省では、これまでも湖南省が開催する各種会議などに市民の参画を得てまちづくりを進めてきました。

人財登録制度の運用を通して、若者、外国人市民、企業などの活躍の場を広げ、そのノウハウをワークショップなどでまちづくりに生かすことで、持続可能な地域社会を市民自ら創り上げるまちづくりを進めます。



地域と若者が一体となり湖南省の未来を考える「湖南省地域まちづくりフォーラム」



●まちづくりの目標2

うるおいのあるまちをつくろう

～自然を生かし、自然と共生するまちづくり～

地球温暖化は全人類が直面する喫緊の課題であり、豪雨被害の頻発・激甚化など、私たちの生活にも密接に関わる問題です。

湖南省では、官民連携により自治体地域新電力会社「こなんウルトラパワー株式会社」を設立し、小売電力事業の収益をまちづくり事業などに活用してきました。また、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高く評価され、「SDGs 未来都市」に選定されています。さらに、太陽光発電を活用したエネルギーの一括管理と、独立電力供給網（マイクログリッド）の整備によって、再生可能エネルギーの自給自足を図ってきました。加えて、林業と障がいのある人の就労を掛け合わせた「林福連携事業」が国に評価され、「脱炭素先行地域」にも選ばれています。

そして、多くの市民もまた、湖南省の将来の姿として自然がいっぱいのまちに希望を抱いていることから、環境や教育、福祉などと連携しながら、自然の豊かさやありがたさを将来に継承することは使命となっています。

市内には森や川と調和した大規模な公園が各所にあり、こどもから高齢者まで憩える場としての大きな潜在力を秘めています。こうした拠点となる個性的な公園やプロムナードは、地域住民の日常に安らぎを提供するとともに、市外からの訪問者を惹きつける魅力的な空間となる可能性を秘めています。

一方で、住宅地開発に伴い設置された小さな公園の中には、人口減少や少子高齢化により利用が低迷しているものも少なくありません。これら既存の公園や空き地の有効活用、維持管理の効率化は社会的課題です。そこで湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルを実現できるよう支えあうとともに、10年後の未来を見据え、地域ニーズに応じた公園機能の統廃合や再整備など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

とりわけ、①こなんSDGs 未来都市の実現・脱炭素化、②公園活性化を重要な政策テーマに据え、「先行的な政策で脱炭素に取り組むまち」、「身近に緑とふれあえるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。

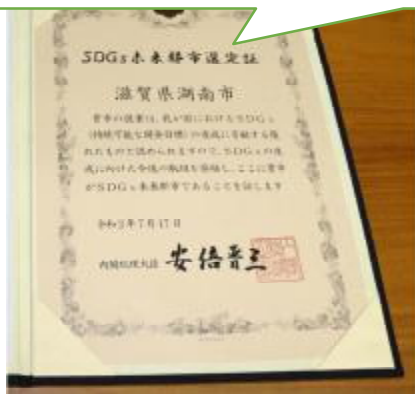


2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・ 先行的な政策で脱炭素に取り組むまち
- ・ 身近に緑とふれあえるまち

2020年（令和2年）7月17日 「SDGs未来都市」に選定（内閣府）※県内初



2022年（令和4年）11月1日 「脱炭素先行地域」に選定（環境省）



憩いの場として注目されている森北公園



まちづくりセンターに設置している太陽光パネル



公園遊具のペンキ塗りを楽しむ子どもたち



●重要な政策テーマ

政策テーマ2-1：こなんSDGs未来都市の実現・脱炭素化

◆こなんSDGs未来都市の実現

湖南省では、官民が連携し、小売電力事業の収益を活用してまちづくり事業などに取り組むことを目的として自治体地域新電力会社「こなんウルトラパワー株式会社」を2016年（平成28年）に設立しました。

官民が連携し、太陽光発電など自然エネルギー導入プロジェクトの実施、省エネ関連サービスの提供、農林業や福祉と連携した自然エネルギーの活用に取り組み、地域内のエネルギーの循環による地域経済活性化のまちづくりを進めます。

◆脱炭素の地域づくり

湖南省は、2020年度（令和2年度）にSDGs未来都市の選定都市として、脱炭素社会の実現に貢献するため、2050年（令和32年）までに市内のCO₂排出量実質ゼロをめざす「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言しています。また、官民連携での太陽光発電や蓄電池の導入によるエネルギーの一括管理や、林福連携事業が評価され「脱炭素先行地域」に選定されました。

湖南省の特性を生かしたエネルギーと経済の循環モデルの確立による持続的な脱炭素社会の実現、公共施設や民間の施設（工場・事業所）、住宅への太陽光発電・蓄電池などの導入促進などに取り組み、官民連携による脱炭素の地域づくりを進めます。



2. まちづくりの目標

政策テーマ2-2：公園活性化

◆魅力的で個性的な拠点となる公園の充実

市内には野洲川親水公園や森北公園、菩提寺運動広場などの自然豊かな大規模公園が各地にあります。市民はこれらの拠点的な公園を有効に活用し、集い、憩える空間の整備や子育てにやさしい公園の整備を求めています。

地域ごとに規模が大きな拠点公園それぞれの特性を生かしながら、公園内に気軽に立ち寄って憩うなど市民がリフレッシュすることができる空間を整備し、魅力的で利用しやすい公園が多く市民に親しまれるまちづくりを進めます。

◆身近な公園の再編

市内には身近な小さな公園が多数ありますが、利用者が少ない、維持管理が不十分などの課題を抱えています。

市民に親しまれ、利用されている公園施設などの長寿命化や適切な更新を行うとともに、周辺住民や地域とのつながりを大切にしながら小規模で利用度が少ない公園の再編を実施するなど、市民の心と暮らしが豊かになる公園が身近にあるまちづくりを進めます。

◆自然環境・生態系の保全

湖南市は野洲川や阿星山系、岩根山系の丘陵地など豊かな自然環境に恵まれています。また、特色ある自然資源として国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」があります。

これらの豊かな自然環境および生態系を次世代に継承していくために、「平松のウツクシマツ自生地」を失わないよう保全し、また、地域や事業者と連携し森林や里山、農地、水辺をフィールドとする体験型の環境学習を通して子どもから大人まで市民の環境保全意識の向上を図るなど、いつまでも自然と生き物が豊かなまちづくりを進めます。



平松のウツクシマツ自生地



ウツクシマツ絵本
「ウツクシマツのキセキ」より



●まちづくりの目標3

活気あるまちをつくろう

～人と産業が集い、公共交通でつながるまちづくり～

少子高齢化と人口減少は社会全体に関わる課題であり、公共交通網や地域経済に深刻な影響をもたらしています。湖南省も例外ではなく、あらゆる世代の多くの市民が、通勤・通学や買い物などさまざまな目的で、ＪＲ草津線やコミュニティバスの利用にとっても不便を感じており、公共交通の利便性向上および新たな交通手段の検討が急務です。

一方で、国道１号の整備や名神高速道路栗東湖南ＩＣの開設によって、湖南省の広域的な交通の利便性、重要性はますます高まっています。

そうした状況の中で、基幹産業であるものづくりを支えてきた経営者や職人などの豊かな人財が豊富であることは、湖南省の大きな強みです。彼らが培ってきた知見やネットワークを活用しながら、上述のさまざまな課題に向き合っていくことは、湖南省の将来を左右するような希望へとつながっています。住民・企業・行政が手を取り合えば、ライドシェアなど支えあいによる新たな交通手段の導入も十分に可能性があります。

同様に、商業、農業、観光などの産業振興や空き家対策においても、住民・企業・行政が協働することで成果を上げることができるでしょう。このように、湖南省では、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10年後の未来を見据え、費用負担のあり方の検討も含む公共交通事業計画の再編、人づくりに重きを置いた産業振興、都市計画など、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

とりわけ、①公共交通、②都市計画、③企業誘致、④産学官連携の４つを重要な政策テーマに据え、「公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち」、「企業が進出したくなる、異業種交流ができるまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。

2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・公共交通・都市計画・インフラ整備に長期的な視野を持つ住みやすいまち
- ・企業が進出したくなる、異業種交流ができるまち

大阪、名古屋から 100 km 圏内にあり、国道 1 号沿いで、栗東・栗東湖南・竜王 I C、国道 8 号にもアクセスが良い



湖南工業団地をはじめ、5箇所の工業団地がある



地域経済の自立度を表す指標である「地域経済循環率」は 111.7% と、県内市町で 7 番目に高い
(湖南市産業振興ビジョン)



県内最大級の湖南工業団地

製造品出荷額等は県内 8 位

運輸業・郵便業の純付加価値額は県内 3 位
(2021 年経済センサス)



市内を横断する国道 1 号



名神高速道路栗東湖南 I C 周辺の産業用地



●重要な政策テーマ

政策テーマ3-1：公共交通

◆公共交通の見直し

だれもが公共サービスなど必要な場所に移動することができる「移動の権利」を保障するため、公共交通ネットワークを維持することが重要です。一方で、交通事業者が公共交通サービスを任せるだけでは、地域の公共交通の水準を確保することが困難な状況です。

関係主体の役割分担や費用負担のあり方も踏まえた公共交通事業計画の再編に取り組めます。

J R草津線について、利用客増加策に取り組むとともに、関係団体などと連携しJ R西日本へ働きかけ、利便性の高いダイヤ編成の実現を推進します。

だれもが便利に移動できる交通環境の形成に向けて、コミュニティバスに加えてライドシェアなどの新しい交通手段の導入が求められています。

また、湖南省の地域特性に合致し地域に根ざした交通手段の導入に向け、産学官の連携による社会実験・先導的モデル事業の実施などを検討します。

◆バスの利便性向上

市内のコミュニティバス「めぐるくん」は石部駅・甲西駅・三雲駅などと接続しています。

通勤・通学を主たる利用者として位置づけ、鉄道などとの乗り継ぎやデジタル技術を導入した「めぐるくん」の現在位置情報の可視化などによる利便性の向上、利用実態やニーズに応じたバスルートの見直し、複数の事業者による役割分担など最適な運営主体の検討や利用者の確保、掘り起こしを検討し、利用しやすいバス交通の実現を図ります。



コミュニティバス「こにゃんバス」



2. まちづくりの目標

政策テーマ3-2：都市計画

◆駅周辺のまちづくり

市内には東西方向に走るＪＲ草津線に石部駅、甲西駅、三雲駅の３駅があります。効率的・効果的な都市経営を行っていくうえで、駅を中心としたまちづくりを進めることが重要です。また、駅周辺に多様な世代の人たちが集い・交流できる憩いの場を創出することが求められています。

駅周辺に魅力的な企業を誘致するとともに、住みたいと思える良質な住宅地の開発、既存商店街や沿道まちづくりの活性化、駅周辺に憩いの場を整備するなど３駅の周辺にさまざまな都市機能が集積するまちづくりを進めます。



石部駅南側駅前広場 完成図

◆計画的な市街地・住環境整備

湖南市は、古くは近江と伊勢を結ぶ伊勢参宮街道が通り、江戸時代には東海道が本格的に整備されたことで石部宿が置かれ、街道を中心とした産業や文化が発展しました。名神高速道路の開通に伴って栗東および竜王ＩＣなどに近接する有利な立地条件を生かした工業団地開発や、ＪＲ草津線開通に伴って京阪神都市圏への通勤・通学の利便性の高さからベッドタウンとしての住宅団地開発が進められてきました。さらに、2016年（平成28年）に栗東湖南ＩＣが設置され、より交通利便性が高まりました。

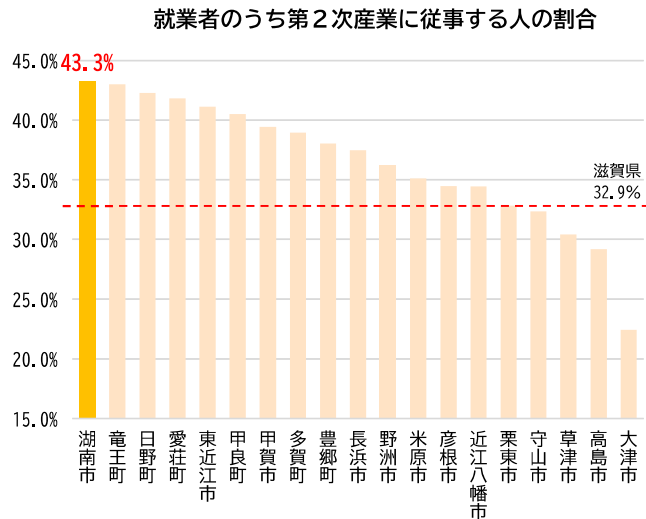
これまで整備してきた都市基盤の適切な維持管理、国道1号の4車線化をはじめとする道路の整備、質の高い住環境の整備や空き家対策、豊かな自然環境と調和する良好な景観の形成、野洲川をはじめとした河川改修整備を促進するなど、安全・安心で暮らしやすい環境を形成します。



政策テーマ3-3：企業誘致

◆企業立地の促進

湖南省は、国道1号や名神高速道路などの広域的な交通環境に恵まれています。この交通便利性を生かして、湖南工業団地をはじめとした5箇所の工業団地には多くの企業が立地しており、湖南省は、第2次産業の就業者人口割合が県内で最も高い割合を占めるなど製造業を中心に発展しています。



出典：「しが統計ハンドブック 2025」

市内の既存企業間の連携を図り、地域内の経済循環構造が形成されるよう協議の場を積極的に創出します。中小企業における生産性向上の取組や異業種交流の支援、湖南省のものづくり産業を支える職人や経営者が持つ志や知識、人脈を駆使するなど、優れた人財の知見を活用した企業が進出したくなるまちづくりを進めます。

また、卓越した技術を有する市内企業などとの連携を進め、市内外の大人や子どもに湖南省の魅力を感じてもらえる工場見学会などの新たな体験プログラムを創出し、湖南省の産品と国の天然記念物「平松のウツクシマツ自生地」や「湖南三山」などの文化財、伝統行事などを織り交ぜた観光ツアーの実施をめざします。



2. まちづくりの目標

政策テーマ3-4：産学官連携

◆企業、大学、行政による連携機会の創出

湖南省では、2024年（令和6年）に健康状態の可視化や運動、食に強みを持つ大学および企業とともに協定を締結し、持続可能な健康のまちづくりを推進しています。

このような学術機関や民間事業者との連携の取組をさらに広げ、鉄道駅周辺の未利用地の活用による人が集まる場所づくりの社会実験を実施するなど、産学官が連携し、それぞれの強みを生かしたイノベーションを創出していきます。

◆産官学金労言士によるまちづくりの推進

地方創生においては、産学官に加え金融機関や労働業界、マスコミ、弁護士や中小企業診断士などで構成される推進組織による、地域経済の活性化やイノベーション推進に取り組むことが重要とされています。

湖南省では、これまで農産物の加工・流通・販売までを行う6次産業化などで産学官の連携に取り組んできました。

市内の状況に精通する人財に加え、全国的な優良先進事例に関わった経験があり、成功を導くノウハウを有するプレイヤーなどを招致し、都市部からの産業や人の流れを生み出し、活気あるまちづくりを進めます。



●まちづくりの目標4

ほっとする暮らしをつくろう

～こどもが主役の、生涯健康で安心して暮らせるまちづくり～

2023 年（令和 5 年）、社会全体でこどもと子育て世帯を応援し、こどもたちの最善の利益を第一に考え、こどもたちが健やかに成長できる「こどもまんなか」社会の実現をめざし、こども家庭庁が発足しました。

湖南省では、全国に誇る先導モデルである発達支援システムを筆頭に、福祉サービスの各分野において、社会変化に即した支援ネットワークの構築と人材育成に注力してきました。2024 年（令和 6 年）には、妊産婦、子育て世帯、こどもへの一体的な相談支援をより強化するため、「こども家庭総合センター」を設置しました。デジタル化により利便性を高めることに加え、保健師による産後ケア訪問などきめ細かな支援を行い、安心してこどもを産み育てることができるように「人と人」が支えあってこどもや子育て世帯に寄り添う支援の輪は、湖南省の自慢の光景です。

湖南省は、互いを尊重し合い、高齢者や障がいのある人を含むだれもが自分らしく生きることができる地域共生社会の実現を進めています。そのため、地域包括支援センターが中心となり、民生委員・児童委員・地域支えあい推進員と連携し、地域包括ケアシステムの構築を進めています。また、SOS のシグナルを発信することが難しい状況にある外国人市民向けにも、大切な情報を確実に届けることが重要であり、医療・危機管理の分野ではデジタルツールの活用が求められています。

湖南省では、あらゆる社会や理念の中心に「こども」を置き、だれもが夢のあるライフスタイルの実現を支えあうとともに、10 年後の未来に向け、支援を受ける人、支援の担い手となる人両方に配慮した相談窓口の仕組みづくりなど、重要度と市民ニーズを踏まえた施策に取り組んでいきます。

とりわけ、①こどもまんなか、②健康福祉、③防災減災の3つを重要な政策テーマに据え、「安心して子育てできるまち」、「だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち」、「発達支援システムが充実しているまち」、「防災減災を市民とともに進める災害に強いまち」をめざすまちの方向性に掲げ、総合的かつ計画的な行政運営を進めていきます。

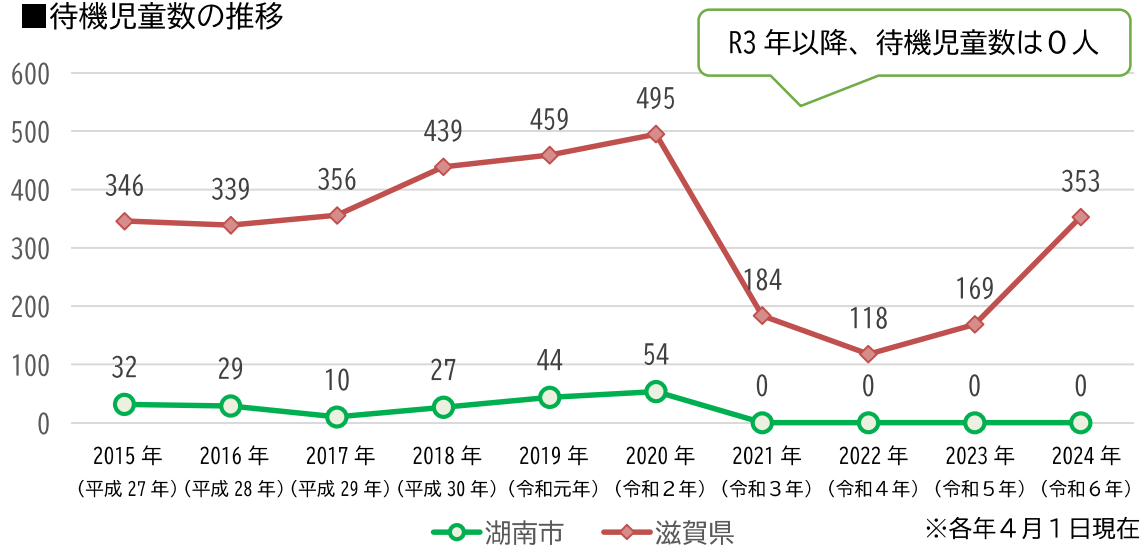


2. まちづくりの目標

●めざすまちの方向性

- ・安心して子育てできるまち
- ・だれもが健康でいきいきとした楽しむ人生を送れる健康長寿のまち
- ・発達支援システムが充実しているまち
- ・防災減災を市民とともに進める災害に強いまち

■待機児童数の推移



「社会福祉の父」糸賀一雄氏が創設した近江学園、全国に先駆けて構築した発達支援システムがある



離乳食を始めるにあたっての講話や実演を行うもぐもぐ教室



妊娠・出産・育児について学び、仲間づくりを目的として開催されているママパパ教室



●重要な政策テーマ

政策テーマ4-1：こどもまんなか

◆子育て環境の充実

深刻な少子化や子育てしづらい社会環境、虐待や不登校の増加、ヤングケアラー（家族の介護や世話を日常的に担っている状況にあるこども）など、こどもおよび子育てに関して社会全体で取り組むべき多くの問題があります。これらは、いずれも放っておくことはできない早急に解決すべき課題です。

保育事業者と連携し保育環境の充実、保育の受け皿の適正な確保に取り組むほか、子育て世帯の経済的負担の軽減、さらには子育てしながら働きやすい就業環境づくりなど、社会全体でこどもの健やかな成長を見守り、安心してこどもを産み育てることができるまちをめざします。

また、地域のこどもが気軽に立ち寄れる場所で食事が提供されるなど、こどもの居場所づくりに取り組むことにより、支援が必要なこどもの早期発見と適切な支援につなぐ仕組みを構築します。

◆教育環境の充実

社会の変化や技術の発展は、一層スピードを増しています。変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく育むことが大切です。

このため、家庭と地域と学校、行政が連携し、地域全体でこどもたちの「生きる力」を伸ばす体制づくりに取り組みます。

地域住民とのふれあいや地域の資源を生かした体験学習、課題解決型学習に取り組むなど、地域を深く理解し、愛着や誇りを育てます。



こどものことばの豊かさを育むため、音読集「ことばの宝石箱」の暗唱・群唱や「湖南市の小さな詩人たち事業」で歌や短歌を作っています



2. まちづくりの目標

◆子育て世代、若い世代への支援

雨天時のこどもの遊び場や保護者同士が交流する場、若者が気軽に立ち寄り過ごすことができる場の確保、子育てに関する相談窓口の充実に取り組むなど、憩いや交流がしやすく孤立が生まれないまちづくりを進めます。

また、事業者への働き方改革の促進により保育負担の軽減や延長保育、病児保育の充実を図ります。



遊び場や子育て情報の提供・相談ができる
「子育て支援センター」

◆発達支援システム・特別支援教育の充実

湖南省が培ってきた独自の発達支援システムは、乳幼児期から就労まで「たて・よこ・ななめにすき間なく」をモットーに関係機関が連携して切れ目のない支援で、だれ一人取り残さない障がい福祉の中核を担う仕組みであり、社会の変化に応じて充実を図ることが重要です。

さまざまな発達特性についての理解促進を図るとともに、システムを支える人材の育成・充実に取り組み、自立した地域生活が送れるよう関係機関が連携し障がいのある人のチャレンジをサポートできるまちづくりを進めます。また、特別支援教育については、関係する機関が個別調整会議などを通じて連携を強化し、不登校の未然防止や不登校児童・生徒の居場所づくり、学びの支援を行うなど、全てのこどもが学べるまちづくりを進めます。



政策テーマ4-2：健康福祉

◆高齢者福祉の充実

いつまでも住み慣れた地域で自分らしく暮らすことができるよう、地域包括支援センターを中心に、地域包括ケアシステムの充実を図り、協働による見守りや支援ができる地域の体制づくりを進めます。

元気で活躍できる機会・場が地域にある、生活支援を必要とする高齢者やその介護をする家族に対するサービスがあるなど、予防とサポートの総合的な取組を進めます。

◆障がいのある人への生活支援サービスの充実

湖南省では障がいのある人の自立的な生活を支えるため、必要なサービスの提供や相談支援を行っています。通所型のサービスについては、在宅型の支援もあり、多様なサービスが広がっています。

障がいのある人を含めだれもがお互いに支えあいながら地域の中で自立した生活ができる環境を整えます。職場や学校などでそれぞれの能力を発揮し、自己実現が叶うあたたかい地域づくりを進めます。また、だれもが利用しやすい生活支援サービスの仕組みづくりを進めます。

◆健康づくりの推進

日本人の長寿化は世界最高水準にあり、湖南省でも着実に高齢化が進んでいます。長い人生をいつまでも健やかに暮らし続けるため、市民一人一人の健康増進への意欲と関心を高めることが重要です。

運動実施率の向上をめざし、「健康状態の可視化の仕組み」「運動」「食」の分野で強みのある企業との連携のもと、運動への無関心を好奇心に変え、市民が楽しみながら自然に運動習慣と正しい食生活が身につくプロジェクトを展開するなど、元気な100歳が活躍する地域社会を形成します。



地域の身近な場所で催されるサロン活動